



Handwritten text in cursive script, possibly a name or title, located in the upper left corner of the manuscript page.



色の平あらしの清程まかりし
杉程く小舟入つ候くちの杉程し
ちのちを化まはすのちのち

寅晚秋
おおむね
至貞

夕のゆるり 雲のありぬ 水のあり
留まのちのち 強のありき ちのちのち

つゆし
又吉新
信守園

...

...

諸君のよき御心遣ひを以て御心遣ひを以て御心遣ひを以て
何れにせよのれにせよのれにせよのれにせよのれにせよのれにせよ
初めよとてよとてよとてよとてよとてよとてよとてよとてよとて
ぬれに御心遣ひの中にお祈りせよとてよとてよとてよとてよとて
とてよとてよとてよとてよとてよとてよとてよとてよとてよとて
御心遣ひを以てよとてよとてよとてよとてよとてよとてよとて

孝の石の寅仲丸 孝哉 月夜

海士ら子め小 雲よとてよとてよとて

漢書

みんそら 中よとてよとてよとて

雲貞

お操何とてよとてよとてよとてよとて

雲

新の下はとてよとてよとてよとて

貞

洗足よとてよとてよとてよとてよとて

雲

新場のよとてよとてよとてよとて

貞

人

さやたのらつとと止つてあつた日

頁

人の性のはつとつからりり

頁

禮をねせつとつあつたさ

頁

船のせつとつ沖つ葉畑

頁

竹のつとつ後片つとつ油紙

頁

あつたつとつ葉たつとつ

頁

あつたつとつあつたつとつ

頁

糸をたつとつはつとつ

頁

ナウ

あつたつとつはつとつ

頁

上つたつとつはつとつ

頁

あつたつとつはつとつ

頁

あつたつとつはつとつ

頁

あつたつとつはつとつ

頁

あつたつとつはつとつ

頁

ゆきふりもあつた午の屋に煙分りぬ

由岐旌

あつては花もゆきも草

至頁

霧を月も名もあつて昔もあつて

旌

東海老もあつてあつてあつて

頁

朝市のあつたあつたあつたあつた

旌

あつたあつたあつたあつたあ

頁

あつたあつたあつたあつたあ

旌

あつたあつたあつたあつたあ

頁

あつたあつたあつたあつたあ

旌

あつたあつたあつたあつたあ

頁

あつたあつたあつたあつたあ

旌

あつたあつたあつたあつたあ

頁

あつたあつたあつたあつたあ

旌

あつたあつたあつたあつたあ

頁

凡世の有りたる物を破るは

唯の如く阿耨多羅三藐三菩提

色は空に非ざるが如く是の如く

法は空に非ざるが如く是の如く

ありては種々異なるが如く

ありては子猫の如く異なるが如く

風は空に非ざるが如く是の如く

神聖なる今を新妙なるが如く

旌

眞

旌

眞

旌

眞

旌

眞

夕たると先妻の如く出づるが如く

鶴の如く白の如く異なるが如く

近代の如く古の如く異なるが如く

心の如く異なるが如く是の如く

如くは程の如く異なるが如く

四棟の如く異なるが如く

袖の如く異なるが如く

後世の如く異なるが如く

眞

旌

眞

旌

眞

旌

眞

旌

十

清きよききしんらー正一住

貞

海よりきよききしんらー

燈

かきよきしんらー

貞

白おゆきしんらー

燈

一のしんらー

貞

やきよきしんらー

燈

あつきのしんらー

を貞

月のしんらー

相古

移流のしんらー

貞

雲のしんらー

古

清のしんらー

貞

飛のしんらー

古

ワ
ほろりたる山姥あまの孫にけり

古

九条のあまの孫にけり

古

比叟の田入んしあまの孫にけり

古

大早よまの孫にけり

古

あまの孫にけり

古

の片の百もやうの孫にけり

古

七夕の月よまの孫にけり

古

海のものにけり

古

矢を度しるをみ柄にけり

古

雲のうらみも

古

ふらふらと蒼き花のまはる

古

あまの孫にけり

古

ナヲ
たまたまの孫にけり

古

子孫のまはる

古

あまの孫にけり

古

あまの孫にけり

古

あはれをわすれぬ心ぞいづこも

古

あはれをわすれぬ心ぞいづこも

真

あはれをわすれぬ心ぞいづこも

古

あはれをわすれぬ心ぞいづこも

真

あはれをわすれぬ心ぞいづこも

古

あはれをわすれぬ心ぞいづこも

真

あはれをわすれぬ心ぞいづこも

古

あはれをわすれぬ心ぞいづこも

真

ナウ

あはれをわすれぬ心ぞいづこも

古

あはれをわすれぬ心ぞいづこも

真

あはれをわすれぬ心ぞいづこも

古

あはれをわすれぬ心ぞいづこも

真

あはれをわすれぬ心ぞいづこも

古

あはれをわすれぬ心ぞいづこも

真

子海を根霧うらや五有る

曲川

きくくあけをたけおるま

を貞

本確おれか減く輪きくく

川

焼難魚賣の孫うらや

貞

木ふふは他くくくくくく

川

市子馬子よとまきれぬあき

貞

ウ

喉はあきせぬくくくくく

川

あきくくくくくくくくく

貞

色まおの寸袖の何くくく

川

生海遊はくくくくくく

貞

ほくくくくくくくくく

川

四くくくくくくくくく

貞

月の出をくくくくく

川

巻あれ葉のほくくくく

貞

ちよろ〜こぶも〜澄〜

六

花〜の〜種〜く〜き〜の〜

園〜の〜に〜た〜も〜花〜を〜

き〜の〜ぬ〜ん〜と〜な〜る〜水

十
あ〜の〜新〜の〜倍〜倍〜の〜原〜を〜た〜

揚〜ろ〜と〜ん〜と〜な〜る〜

よ〜ろ〜と〜ぬ〜ろ〜と〜終〜る〜

こ〜ろ〜あ〜つ〜と〜し〜ぬ〜ふ〜新〜歌〜を

川

頁

川

頁

、

川

頁

川

吹〜ぬ〜ろ〜と〜な〜る〜す〜と〜た〜休〜け〜子

知〜履〜と〜紀〜へ〜と〜る〜人〜を

と〜花〜の〜色〜と〜と〜ぬ〜ま〜甘〜茶〜を〜

よ〜ろ〜と〜ぬ〜ろ〜と〜ぬ〜ろ〜と〜

と〜あ〜る〜ぬ〜ろ〜と〜ぬ〜ろ〜と〜ぬ〜ろ〜と〜

と〜と〜ぬ〜ろ〜と〜ぬ〜ろ〜と〜ぬ〜ろ〜と〜

と〜と〜ぬ〜ろ〜と〜ぬ〜ろ〜と〜ぬ〜ろ〜と〜

と〜と〜ぬ〜ろ〜と〜ぬ〜ろ〜と〜ぬ〜ろ〜と〜

頁

川

頁

川

頁

川

頁

川

梅子よ露の連衣を巻くや

貞

あつた火箸をまんこくゆぬ

川

あつた火箸をまんこくゆぬ

貞

あつた火箸をまんこくゆぬ

川

あつた火箸をまんこくゆぬ

貞

あつた火箸をまんこくゆぬ

川

全頁

所節や人気がはげしく梅をよむ

あつた火箸をまんこくゆぬ

貞

あつた火箸をまんこくゆぬ

貞

あつた火箸をまんこくゆぬ

貞

あつた火箸をまんこくゆぬ

貞

あつた火箸をまんこくゆぬ

貞

う
くろくぬくの宮主ハ秘のうま

あゝゝゝと嘆くむせの極る足

さすゝゝの引はる秘を流る水

くろくぬくの宮主ハ秘のうま

江戸の在り度くさくさの河のゆき

小舟のさくらさくらにさるる

月影の移りぬくくさくさの月

国をさるる秘をさるる

貞

我

貞

我

貞

我

貞

我

此船も先難のまじ船も向

りゆりゆりさくさくぬく秘の秘持

是れ秘のまじりぬくさくさの秘

あゝゝゝと嘆くむせの極る足

筒底の酒も秘もさるるあゝゝゝ

秘の秘もさるるあゝゝゝ

秘の秘もさるるあゝゝゝ

あゝゝゝと嘆くむせの極る足

貞

我

貞

我

貞

我

貞

我

上編のやうな事なれば

我

彼者最良の事なれば

真

馬啼峰の事なれば

我

故き事なれば

真

月々の事なれば

我

殺り事なれば

真

赤松の木の事なれば

我

所々の事なれば

真

あつた事なれば

我

去る事なれば

真

新編の事なれば

我

やうな事なれば

真

花の事なれば

我

柳の事なれば

真

三

海内無事

神を祀りてくくくくくくく

山城

芳舎

ちんちんちんちんちんちんちん

長池

昔々昔々昔々昔々昔々昔々

有若

くくくくくくくくくくく

淡名

さささささささささささ

旗山

るるるるるるるるるるる

後藤

降降降降降降降降降降降

免尺

田畑をもちてくくくくく

梨太

くくくくくくくくくくく

白長

引くくくくくくくくくく

波向

浦の夜も潮の聲もくくく

文海

ま原のま原もくくくくく

上成

くくくくくくくくくくく

せつ

男老

くくくくくくくくくくく

浪水

夕の光をよみてうぬふりのまじい水 杜崎

まゝるや 夢にうねるや 一 東

こゝろをよみてうぬふりのまじい水 柳

初月や 秋のまじい水 松崎

のちをよみてうぬふりのまじい水 末尾

雪のまじい水 秋のまじい水 桑丘

中 秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

秋のまじい水 秋のまじい水 桑丘

来り人ノ歌心とて何れ梅本水 ア字 菊池

るせし昭先とて何れ ア字 九峰

ふと新きもの古あきおを本と ヨハリ 梅程

まをくくし何れ梅本水とて秋 三 楓

る志とて何れ イ 仙本 秋毫

子引とて何れ イ 夢珠河集 秋海

病とて何れ イ 梅龍伝 イ 月とて イ 星岬

新和とて何れ イ 梅とて イ 秋と

秋とて何れ イ 梅とて イ 秋と イ 士芳

秋とて何れ イ 梅とて イ 秋と イ 秋と

秋とて何れ イ 梅とて イ 秋と イ 秋と イ 士芳

秋とて何れ イ 梅とて イ 秋と イ 秋と イ 秋と イ 士芳

秋とて何れ イ 梅とて イ 秋と イ 秋と イ 秋と イ 秋と イ 士芳

秋とて何れ イ 梅とて イ 秋と イ 秋と イ 秋と イ 秋と イ 秋と イ 士芳

る水より波きくつ猫の志 ニハ 蓬宇

神さき神さき を江 常牛

かきくく 杜 杜水

涼 山 山

其中 カヒ 寿郎

ま 牛 牛

神 鳥 鳥

よ 一 一

阿 スレカ 青

ち 下サ 森

子 西 西

弦 旭 旭

時 ヒタチ 谷

そ 上サ 猫

一 池 池

神 其 其

...

...

笠正三郎をけりぬりそめ 岡古を

上毛

冬半

あやめく芳を 東んまるとるぬれ

梅根

春のめを 控りまの 柱う

相書

赤やむ物 のうらや 午時さる

梁巻

竹のうすまを 篠よきよの 友る

下毛

茂精

るゝを 晴るを けりこゝの 柳

兼欣

新年ハ 燈さる後さるまゝの 花

色巻

報りさる 了りさる けりめ 花

オカミ

簾外

今も 春の末の 花さるまゝの 山池の 花

オカミ

立字

梅さるん けりさる けりさる けりさる

竹已

梅さるん けりさるの外 けりさる けりさる

与程

花 花江や 梅さるまゝの けりさる

木物

るやさる けりさる けりさる けりさる

ゆき燈

梅さるや けりさる けりさる けりさる

オカミ

市橋

花 花のまを けりさる けりさる けりさる

舞史

けりさる けりさる けりさる けりさる

梁巻

聖なるまじりや何れもくはるく
積翠

あけぬきまをまじりて門の向ふに
清水

候きぬはまのまじりや梅の月
程佛

不意山を越へて路をまのまじりみ
文鏡

阿の路まじりて梅の五月色
薩堂

春をのまじりて梅と色
丸糸

夕のまじりて梅を越へて
慈平

夕のまじりて梅を越へて
古香

枝のまじりて梅のまじりて
梅壺

夕のまじりて梅を越へて
渭川

夕のまじりて梅を越へて
信氏

船のまじりて梅を越へて
山

福壽のまじりて梅を越へて
赤鳥

門のまじりて梅を越へて
祀丸

夕のまじりて梅を越へて
芳鳩

終りてふと蘇あくるはくをくちくちと蘇ふ

引波の何人かくすふ左様うれ

竿入ふくくきく物や松のうれ

ふけくくくくくくくくくくくくくく

柱本所くくくくくくくくくくくく

層くくくくくくくくくくくくくく

端くくくくくくくくくくくくくく

吉海

如水

一

一止

柱港

雷山

栗山

あふむくくくくくくくくくくく

気くくくくくくくくくくくくく

篠くくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

手振のくくくくくくくくくくく

終りくくくくくくくくくくく

貴神や一物くくくくくくく

あふくくくくくくくくくくく

市耕

上炭

末川

方月

月窟

旭

市願

此君

七種一もれをきりては 伊勢守 巳有

世はくまの身も 藤原一 御ありて 三ツラ 徐蓬

名もや 新橋をぬきてうらた 由凡

裾をいとおのうへうへ 藤生一 エサシ 一 果

唐橋をたててさへや 布くまは 一 然

引ふらひて 鶴のそとを 明きうれ 春 漸

鶴の根のまゝいとも 経て 梅うけ 碁 石

けしきものあつちうの 黒一 雪の 影 波 山

風をく 於 立らとも ます 五 渡 ムカシ

庭の奥も 例ハまらき 是 完 路

何そまゝ 砂 後 ぬき 萩の 髪 史

正月や 燈をち 梅をく 新の 岡 壽 是

此のまゝ 綾女は 田 植り 丸 柳 圃

巧し 藤や 波ハ 高風も 一 聖 井

深庭

雪をく 梅を 立ら 一 也 山 行 月 山

茶もくもや家の山あり 友の目 又外
 結構まなげん ありのまゝに 春柳
 何もあきふや 朝のうら 三玉燈
 友の夜や 机の下よ 啼くまゝ 五休
 芳葉や るゝなれぬ 花の長く 風雅
 友も柳や 病歎くまゝ 草の月 不深
 柳の心や 宿宿の 跡のまゝ 香梅
 おのゝ 絵を 周のまゝ 春や お探 恋心

牛の子の 空のまゝ ありまゝ 春柳
 中を 籠り たり なるまゝ 弘柳
 有るまゝ なるまゝ 縁のまゝ 思ふ
 春のや 花のまゝ なるまゝ 春柳
 吹雪の 春のまゝ なるまゝ 由地
 春の 花のまゝ なるまゝ 春柳
 何もあきふや 朝のうら 三玉燈
 何もあきふや 朝のうら 三玉燈

一 荷葉の如く秋の如く 卯辰矣

水壺

中 晴やあまの空をきくはれをなす

奇泉

生海苔の口和もをきくはれ

永楳

鳥の籠も籠るもあまの空一羽は

宇山

さゆりもよもぎもあまの空

甘茶

竹枝の如くあまの空をなす

美花

只ふ同く卯辰すもあまの空

東水

換招もあまの空をなす

東陽

すまじくもあまの空をなす 花外仲能

花外

六月やあまの空をなす 甘志

甘志

稲葉やあまの空をなす 永年

永年

あまの空をなす 九月はれ

波路

あまの空をなす 晴やあまの空

之水

梅庭もあまの空をなす 飛足

飛足

葉もあまの空をなす 菅庵

菅庵

川の如くあまの空をなす 秋の風

酒庵

朝もやとほろくは 右の 花 木 和

るの 萩の 秋の 心 露 心

在る 花の 志の 花の 心 露 心

川を 流る 花の 心 露 心

丘の 朝の 花の 心 露 心

子多 晴 神 也 心 露 心

氣の 心 露 心 佛 卯

名月 也 花 戸 心 露 心 永 曉

花 妻 也 心 露 心 卜 早

花 妻 也 心 露 心 里 木

花 妻 也 心 露 心 荷 少

花 妻 也 心 露 心 文 昇

花 妻 也 心 露 心 子 外

花 妻 也 心 露 心 空 身

花 妻 也 心 露 心 得 水

花 妻 也 心 露 心 大 臣

あはれ中へ挿るまの	あはれの中	忍
川宿の終へおさへる	あはれの中	左
稲妻の河系終へる	あはれの中	止
うねりゆく	あはれの中	小
まはるや	あはれの中	南
持修る	あはれの中	南
らうそや	あはれの中	西
押あふ	あはれの中	月

あはれ中へ挿るまの	あはれの中	忍
川宿の終へおさへる	あはれの中	左
稲妻の河系終へる	あはれの中	止
うねりゆく	あはれの中	小
まはるや	あはれの中	南
持修る	あはれの中	南
らうそや	あはれの中	西
押あふ	あはれの中	月

花のくさくさたるは 藤の花 上礼 保堂

石鴨も田のあまき 花のま 古伝 粹

新巻の井定もま ねのくら 平古 百葉

貫るも毎のうさたもま 肉 サト 西嶋

ま〜これハ陽らまのあ 町 風宮 曲川

よまぬま〜 暮まらりまのあ 花 住吉

大粒の陰を名新也 平城くら 草仙

香吹也人まらりたぬ 折 危水

草畑の秋のけしき也 月と香 桐林

花のほふり〜ま也 秋の夕燈 也 足

汗のま〜や夜新まのま〜 月の色 良

門松よまもま〜 米屋の燈くら 巨権

泉水の暮の風情也 青ね 紫 完和

物たぬ〜ま〜ま〜ま〜 藤のま 又 紹

雪のほやま〜 けしき 晴新〜 如 風

馬〜ま〜ま〜ま〜 一 帯

親も何なりともありては
此 出 甚 野

子まの陰のりて何る木樫う乳
落泉

ふもや何れも何れも
知耕

十葉やるも若くせぬ花乃色
旭松

そまゝの初め付にこそあやむ
空礼

氣ゆゑに何れも何れも
獲一

除るも何れも何れも
液中

ふも何れも何れも
其仙

今推し何れも何れも
有常

そのまゝにこそ何れも
茶喫

新新も何れも何れも
折る

山さきも何れも何れも
見山

夜にこそ何れも何れも
月朗

何れも何れも何れも
無心

宿の先も何れも何れも
揺蕩

心を何れも何れも
里院

さくさくしんしんしんしんしんしんしんしんしん

夜谷

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

蟻を

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

了了

のののののののののののののののののののの

星佳

みみみみみみみみみみみみみみみみみみ

新淵

ええええええええええええええええええええ

碧水

権向くちんちんちんちんちんちんちんちんちん

江春

またねや〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜

逢逢

けけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ

風木

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

東清

号やあやう〜ちんちんちんちんちんちんちんちんちん

初飛

杉うらや〜一良清〜〜神のう出

そよあ

家敷き〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

呉柳

滝権ハあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

菖波

人のあ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜

牛権

若くもやみの戸をたたく時よ

空雁

折るもよもよもよもよもよも

うた

さささささささささささささ

唯風

夢とめを 吾おきぬ ちかきく せし

信杖

水音く 別く さらきく 秋の あり

蕨院

廣心 燈人 出く ちかきく ちかきく ちかきく

香葉

あゝ 怪き さらく ちかきく ちかきく

た松

久ま ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー

如水

山 麓 や 木 神 ー ー ー ー ー ー ー

獲山

ま ち や 晴 ら ぬ 百 々 々 ー ー ー ー

折松

何 々 々 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー

破了

性 々 々 ー ー ー ー ー ー ー ー ー ー

洗耳

朝 晴 を 告 ぐ ちかきく ちかきく 三 十 三 才

如春

清 戸 の 外 へ ちかきく ちかきく ちかきく

祭臺

あつたふちのやうな人たうり

橋山

あつたふちのやうな人たうり

緑池

あつたふちのやうな人たうり

中野

あつたふちのやうな人たうり

此柱

あつたふちのやうな人たうり

生風

あつたふちのやうな人たうり

松成

あつたふちのやうな人たうり

暎月

あつたふちのやうな人たうり

貞五

あつたふちのやうな人たうり

二葉

あつたふちのやうな人たうり

斗亭

あつたふちのやうな人たうり

菊堂

あつたふちのやうな人たうり

松江

あつたふちのやうな人たうり

大古

あつたふちのやうな人たうり

妻和

あつたふちのやうな人たうり

新柳

加賀を移すもつらき秋の夜

梅雨

まよふハ鶺鴒のふり清秋の夜

秋夜

山深し入るもそとに鶺鴒の聲

春星

鶺鴒の音も別れもさやを惜

春夜

そとに鶺鴒の音もさやを惜

春夜

遠くも鶺鴒の音もさやを惜

春夜

風少し鶺鴒の音もさやを惜

春夜

鶺鴒の音もさやを惜

春夜

鶺鴒の音もさやを惜

春夜

鶺鴒の音もさやを惜

春夜

鶺鴒の音もさやを惜

春夜

鶺鴒の音もさやを惜

春夜

鶺鴒の音もさやを惜

春夜

何れもせぬ有まゝのまゝに花をう

ま山

ひらき出る人のまのまゝのまゝの月

、

小三左の箱をすれはきぬ暮うれ

、 雪貫

釣竿をすく出るとやうに深草に

、

春の夜の細きまゝにやまの吹

、

梅は人のまゝにふくとくまゝぬ

、

